

# 若い世代の危機感

～沖縄発・戦争の非体験者たちがつなぐ未来～

2026年3月22日(日) 13:00～16:40(開場・受付:12:30～)  
会場：沖縄大学同窓会館

本講座は、「沖縄高校生平和ゼミナール」などの活動を紹介し、広島・長崎、そしてビキニ環礁での被ばく（第五福竜丸事件）という、日本の平和の原点ともいえる記憶を繋ぎ合わせる試みです。いかに大人たちの世代が行動して、若い世代をサポートしていくのが問われています。若い世代が、単なる「知識」としての平和学習を超え、大人たちの世代とも伴走して、いかにして「当事者」としての言葉を紡ぎ出していけるのか。そのプロセスを可視化し、共有することを目的としています。

## 【第1部：表現】

(朗読劇「ばらの祈り 死の灰を越えて」)

「沖縄高校生平和ゼミナール」のメンバーによる朗読劇。第五福竜丸で被ばくし、亡くなった久保山愛吉さんの妻・すずさんの物語を非体験者が当時の感情にどこまで肉薄できるかを表現します。

(「愛吉・すずのばら」挿し木譲渡会)

第五福竜丸で被ばくし、亡くなった久保山愛吉さんの妻・すずさんが育てたばらの挿し木の贈呈式（被ばく者からの声）ノーベル平和賞を受賞した「日本原水爆被害者団体協議会（日本被団協）の田中重光さんからのメッセージを映像でお伝えします。

## 【第2部：対話】

(パネルディスカッション)

パネリスト：平良次子氏、市田真理氏、上原之映氏、久場小百合氏

コーディネーター：内山直美氏

(クロストーク) 皆さまからの意見を取り上げ登壇者からの回答

(音楽 演奏) 憲法前文の歌のコラボ演奏

総括：藤原健氏

過去を振り返るためだけの催しではありません。新たな戦争への「若い世代の危機感」という鋭い感性を触媒に、私たちが無意識に受け入れている現状を問い直し、戦後100年に向けてどのような「平和の根拠」を構築できるかを問う、創造的な場となることを確信しています。

主催：沖縄大学地域研究所

連携：琉球新報社／沖縄戦の記憶継承プロジェクト

問い合わせ先：沖縄大学地域研究所  
住所：那覇市宇国場405番地  
TEL：098-832-5599  
Email：chiken-staff@okinawa-u.ac.jp  
窓口：平日8:30～17:15

参加費  
無料

右のQRコード  
もしくは沖縄大学  
ホームページから  
お申込みください。



# 登壇者プロフィール

## ◆平良 次子 対馬丸記念館 館長

前職の南風原文化センターで、広島で被ばくした故・沼田鈴子さんの提案を受け、1993年被ばくしながらも生き抜いた「アオギリ」の苗木を譲り受けた。以来、南風原町子ども平和学習交流事業で子どもたちと広島を訪れ、平和学習を重ね現在まで実践している。

## ◆市田 真理 第五福竜丸展示館 学芸員・公益財団法人第五福竜丸平和協会事務局

第五福竜丸展示館学芸員の視点から、広島・長崎に続く「核被害」とも言われるこの事件を、現代の「世界のヒバクシャ」との繋がりの中で研究している。書籍編集者などを経て2001年より第五福竜丸展示館に関わり、中央大学や立教大学で兼任講師を歴任。

## ◆上原 之映 沖縄高校生平和ゼミナールサポーター

学校の枠をこえて中高生が中心に自主的平和学習活動を行う「沖縄高校生平和ゼミナール」を2021年の結成当時からサポート。沖縄戦や広島・長崎のフィールドワーク、被ばく者との交流などを通し平和実現のために「学び、調べ、表現する」生徒たちとの実践を共有する。

## ◆久場小百合 北谷中学校教諭・平和教育者

公立中学校の教師として平和教育に取り組んでいる。また、「平和の礎」名前を読み上げる集いの実行委員として、その理念と取り組みを広げる活動をしており、去年の夏はその取り組みを広島・長崎へ広げた。沖縄戦の記憶継承プロジェクトを受講した知見を踏まえ、学校現場において平和教育を実践した事例を紹介する。

(コーディネーター)

## ◆内山 直美 豊崎中学校教頭

平和教育者、沖縄戦の記憶継承プロジェクト講師

総括コーディネーター 藤原 健 (琉球新報客員編集委員・沖縄大学客員教授)

